

松川町公共下水道  
全体計画変更概要書（案）

令和2年度

長野県下伊那郡松川町

## 1. 松川町公共下水道事業について

本町は、昭和 31 年 9 月に下伊那郡大島村と上伊那郡上片桐村が合併して松川町となり、同 34 年には生田村と合併、高森町山吹の一部を編入して、郡下枢要の町として発展してきた。

本町は平成元年度に改訂された基本計画において、住民の良好な生活環境の確保と公共用水域の水質保全のため、下水道を必要不可欠な施設と位置付け、その整備を促進する必要性を指示している。

そこで本町では、下水道整備の指針となるべき「松川町下水道計画基本構想」を平成元年に策定した。同マップでは、用途地域を核とした約 164ha を下水道整備すべき区域とし、そのほか下水道や農業集落排水を整備すべき集合処理区域を 14 地区計画し、その面積を約 106ha としている。

その後、「松川町公共下水道事業」として、平成 3 年に最初の全体計画約 200ha を策定し、その後平成 8 年度、平成 14 年度に見直しを行い約 203ha へ変更している。

平成 23 年度には全体計画を見直し、将来的に農業集落排水を下水道に接続する方針とした。

また、整備状況は、平成 4 年度に汚水約 94ha の認可を受け、平成 10 年 4 月に松川浄化センターを供用開始し、平成 15 年度には汚水約 203ha、雨水約 48ha に変更し、現在ではその汚水整備率も概ね 100%に達している状況である。

今回の下水道全体計画見直しは、松川町を含む天竜川流域の下水道事業の上位計画である「天竜川流域別下水道整備総合計画」（以下「天竜川流総」という）が見直されたことから、これを踏まえ、全体計画計画目標年次の延伸や将来的な人口減少を考慮して計画諸元の見直しを行うとともに、町全体の汚水処理に要する総合的なコスト縮減を目指し、公共下水道事業を中心として農業集落排水事業の下水道接続の方針を見直すこととした。

その結果、今回計画では、松川浄化センターの現有水処理施設で受け入れ可能な農業集落排水事業 2 地区（大島地区、名子南地区）を下水道接続する計画とし、既計画で下水道接続としていた 2 地区（上片桐下地区、上片桐上地区）については将来的な構想と位置づけた。

表 1 - 1 全体計画の変更概要

項目		天竜川 流総計画	松川町公共下水道				
			既全体計画	全体計画	差分	備考	
計画策定年次		平成28年度	平成23年度	令和2年度	+9年		
計画目標年次		平成47年度	平成42年度	令和17年度	+5年	流総計画と整合	
下水道計画区域面積 (ha)		228	411	306	-105	農集排接続区域を名子南と大島に変更	
行政区域人口 (人)		10,607	12,200	11,017	-1,183	第5次総合計画改訂版と整合	
下水道計画区域人口 (人)		5,373	10,210	7,058	-3,152	接続区域の変更	
家庭汚水量 原単位 (1/人・日)	日平均	225	240	225	-15	上水道及び処理場流入実績を踏まえて変更。地区によって営業系汚水を設定。	
	日最大	280	320	280	-40		
	時間最大	-	545	560	+15		
地下水量原単位 (1 / 人・日)		55	30	30	+0		
汚水 計画汚水量 (m <sup>3</sup> /日)	日平均	家庭汚水量	1,209	2,450	1,557	-893	
		工場排水量	209	140	382	+242	
		その他	0	40	40	+0	
		地下水量	296	307	212	-95	
		計	1,714 →1,800	2,937 →3,000	2,191 →2,200	-746 -800	
	日最大	家庭汚水量	1,504	3,267	1,936	-1,331	
		工場排水量	209	140	382	+242	
		その他	0	55	50	-5	
		地下水量	296	307	212	-95	
		計	2,009 →2,100	3,769 →3,800	2,580 →2,600	-1,189 -1,200	
	時間最大	家庭汚水量	-	5,565	3,872	-1,693	
		工場排水量	-	280	764	+484	
		その他	-	95	100	+5	
		地下水量	-	307	212	-95	
		計	- -	6,247 →6,300	1,076 →5,800	-5,171 -500	
処理場能力 (m <sup>3</sup> /日)		2,700	3,800	2,700	-1,100	現有2池とする。	
処理場 流入水質	BOD (mg/l)	-	247	230	-17		
	SS (mg/l)	-	202	200	-2		
処理場 設計水質	BOD (mg/l)	-	247	230	-17		
	SS (mg/l)	-	202	200	-2		
処理場 設計水質	BOD (mg/l)	15	15	15	-		
	SS (mg/l)	-	30 (10)	30 (10)	-	設計計算上10mg/Lとする。	
下水道計画区域面積 (ha)			203	203	-		
雨水流出量産定式			合理式	合理式			
降雨強度式			5年確率 I=3700/(t+27) 約43mm/時	5年確率 I =583.9 / (t <sup>0.62</sup> + 3.19) 約36.8mm/時			
雨水流出係数 (%)			55	55			

## 2. 農業集落排水の下水道接続方針

下水道全体計画を策定するにあたり、農業集落排水の下水道接続方針の見直しを行った。

### 2-1. 下水道接続検討の概要

今回計画での下水道接続検討においては、下記の視点を踏まえて検討を行った。

- ・「農業集落排水の処理場の老朽化対策を行い、維持する場合」と「農業集落排水の処理場を廃止して下水道接続する場合」に要する費用を計上し、比較を行う。
- ・将来的な人口減により、松川浄化センターの施設余裕が生じることから、これを考慮して検討を行う。
- ・現有施設から能力増強等新たな施設整備が必要な場合、その費用を計上する。
- ・農業集落排水の老朽化対策については、福与地区の対策を実施したことから、同程度の対策内容を想定する。

### 2-2. 下水道接続の検討結果

費用比較に際し、現有施設を前提とした検討となることから、処理場の土木施設を含めた再構築を行うまでの期間として 25 年間程度を想定し、その間の建設費と維持管理費を想定した費用比較を行った。

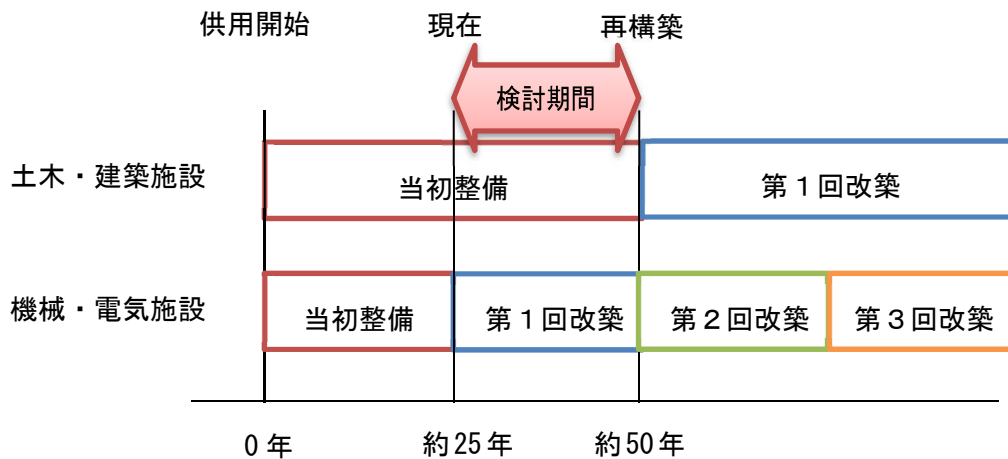


図2-1 検討期間の単純化イメージ（再構築までの25年間程度を想定）

表2-1 農業集落排水排の下水道接続時の経済比較検討結果

地区	建設費、維持管理費を含めた25年間の総費用
大島地区	下水道接続が経済的に有利
名子南地区	下水道接続が経済的に有利
上片桐下地区	農業集落排水を維持する方が経済的に有利
上片桐下地区と 上片桐上地区	農業集落排水を維持する方が経済的に有利

### 2-3. 下水道接続方針

経済性検討の結果、農業集落排水の下水道接続方針は下記の通りとした。

表 2-2 本計画の農業集落排水排接続方針

計画段階	接続地区	内容
第1期 全体計画	名子南 大島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来的な人口減を考慮すると松川浄化センター現有施設の処理能力で受け入れできること。</li> <li>・河川横断等大きな問題がないこと。</li> </ul> <p>→大きな問題はないため、下水道全体計画に位置づけ、下水道接続を進める。</p>
第2期 将来構想	上片桐下 上片桐上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松川浄化センター現有施設の処理能力（水処理、汚泥処理）が不足するため能力増強が必要になる。</li> <li>・片桐松川の横断部の懸念がある。</li> <li>・松川処理区の接続先管きょ下流側で管きょ能力の余裕率が不足すること。</li> </ul> <p>→現有施設を前提とした場合、課題があるため、当面は下水道接続は行わない。ただし、長期的な視点で処理区の形態としては検討の余地があるため、将来的に現有施設の再構築時に再検討を行う。</p>

表 2-3 事業スケジュール案

処理区	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045			
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26	R27			
全体計画				変更																												
事業計画					変更																											
各種計画	ストックマネジメント計画	大島編入		変更		大島編入		変更		変更		名子南編入		変更		変更		変更		変更		変更		変更		変更		変更		変更		
		全体	詳細																													
管渠設計	改築設計							水処理・電気等																								
		大島																														
年数	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48			
水処理能力	2700																															
日最大汚水量	計画			1,944	1,903	1,863	1,832	1,781	2,377	2,327	2,276	2,226	2,175	2,124	2,074	2,022	1,972	1,921	2,359	2,210	2,169	2,128	2,090	2,047								
	水洗化考慮			1,613	1,577	1,541	1,513	1,469	1,946	1,902	1,857	1,813	1,767	1,722	1,677	1,631	1,587	1,542	1,944	1,801	1,768	1,733	1,700	1,664								
水処理施設	1池目	OD (必要時期に改築)																														
	2池目	OD (必要時期に改築)																														
脱水機	現有φ400																															
年数	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46			
年数	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46			
年数	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50			
年数	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42			

※本スケジュールは案であり、実施時期は変更となる可能性があります。

### 3. 下水道全体計画

今回の公共下水道全体計画見直し内容を整理する。

#### 3-1. 計画目標年次

下水道計画の策定にあたり、施設の整備及びその後の耐用年数が長期に渡る事や、管きょ施設などは流入水量の増加に見合って段階的に能力を増大することが困難であることから、長期的な見通しの上で定める必要がある。そのため、計画目標年次は概ね 20 年後程度に設定することが適切とされている。

本計画の上位計画である「天竜川流総」の目標年次は令和 17 年度（平成 47 年度）となっている。これは 15 年後となり、概ね長期的な計画といえることから、これと整合を図り、令和 17 年度を目標年度とする。

目標年度	令和 17 年度
------	----------

#### 3-2. 計画区域

公共下水道松川処理区ほか、5 箇所の農業集落排水（上片桐下、大島、名子南、上片桐上、福与）は全て整備済みである。

本計画では、公共下水道松川処理区を核とし、周辺の農業集落排水のうち、大島地区、名子南地区を下水道へ接続する方針である。そのため、本計画の区域面積は、農業集落排水の各地区を含めた区域を計画面積とする。

なお、農業集落排水の区域は、管きょ台帳を基にした整備済み区域を再計測したところ、農業集落排水としての当初事業計画面積と差異がみられたため、再計測した面積を採用する。

表 3-1 計画区域面積

事業	処理区	当初計画面積 (ha)	今回全体計画面積 (ha)	備考
公共下水道	松川	203	203	変更無し
農業集落排水 (下水道接続)	大島	74	79	再計測値を採用
	名子南	31	24	再計測値を採用
	小計	105	103	再計測値を採用
合計		308	306	

※当初計画面積は、下水道、農業集落排水での事業計画面積

※採用面積は、下水道計画区域にするにあたり、改めて計測した面積

### 3-3. 計画人口

#### (1) 行政人口

松川町の行政人口は平成 16 年頃をピークに減少に転じており、「天竜川流総」などの上位・関連計画や「国立社会保障・人口問題研究所」（以下「社人研」という）の人口予測においても将来的な人口減が予測されている。そのため、本計画においてもこれらの予測を踏まえ、将来的な人口減を考慮した計画策定を行う。

本計画では、予測値を参考に関連計画と整合を図り、次のように設定する。

- ・天竜川流総計画は H22 国勢調査を基にした社人研予測（H25 公表）の予測値 10,607 人を採用しているが、すでに H27 国勢調査を基にした社人研予測（H30 公表）が公表されており、人口予測としては古い値となる。
- ・第 5 次総合計画は H27 国勢調査を基に H22 国勢調査との人口推移を踏まえた予測が行われており、令和 17 年の予測値は社人研予測（H30 公表）よりも若干多い 11,017 人となっている。
- ・本検討で最新の人口（R1 と H26）を用いて第 5 次総合計画の人口予測と同手法（コーホート要因法）で検証した値は 9,969 人となり、他の予測に比較して低い値となっている。これは第 5 次総合計画で予測に用いた人口が H22 から H27 の 5 年間で 509 人の減少であったのに対し、本検討のコーホート要因法では H26 から R1 の 5 年間で 654 人の減となっており、人口減少傾向がより強く表れたものと考えられる。
- ・本計画では、最新の国勢調査を基本とした人口予測を行っており、松川町の将来に向けた基本方針や考え方を整理した総合的な計画である第 5 次総合計画改訂版の推計人口を採用する。
- ・本町の観光人口のうち、大規模な排水が見込めるものとして町営の「清流苑」が挙げられる。これについては、施設排水として別途計上するため、特に観光人口の計上は行わない。

これらを整理すると次の通りとなる。目標年度である令和 17 年度には現況に比較して 13%の人口減となる見込みである。

表 3-2 行政区域内計画人口

年次	令和元年度 (現況)	令和 12 年度 (中間年度)	令和 17 年度 (目標年度)
行政区域内計画人口	12,666 人	11,544 人	11,017 人
現況人口比	1.000	0.911	0.870



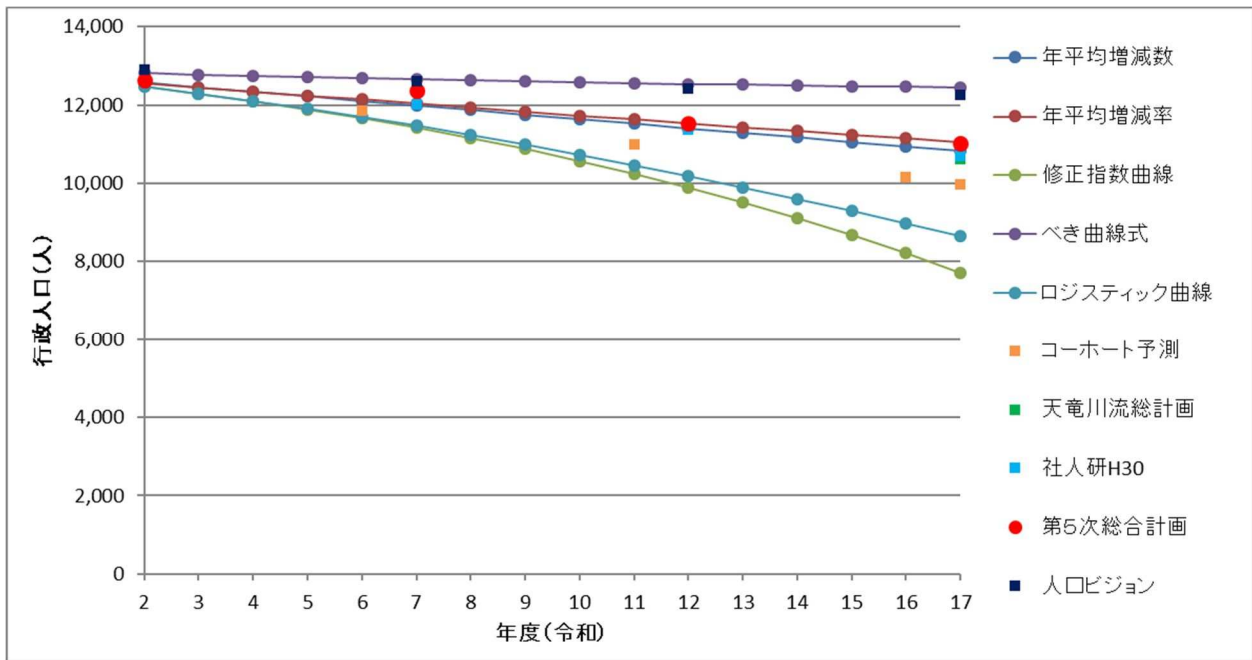


図 3 - 1 行政区域内計画人口予測値

(2) 下水道計画区域内人口

下水道計画区域内人口は、将来行政人口（国勢調査ベース）に各地区の処理区域内人口シェア比を乗じ、処理区域内人口の計画値を算出する。

また、大島地区、名子南地区を将来的に下水道接続する計画であることから、これら処理区を合計した下水道計画人口（将来接続時）を算出する。

表 3 - 3 各地区将来計画人口

区分	処理区	シェア比	処理区域内人口（人）			
			R1	R12	R17	
行政人口			12,666	11,544	11,017	
下水道 全体計画	下水道	松川	43.2%	5,466	4,982	4,754
	農業集落 排水（将来接続）	大島	13.6%	1,715	1,571	1,500
		名子南	7.3%	951	843	804
	計			8,132	7,396	7,058

### 3-4. 1人1日当たりの汚水量

松川町の上水道事業では、1人1日あたりの水使用量は過去において増加していたが、平成19年度頃をピークに減少に転じている。今回計画では、松川町の実態を考慮して設定を行う。

#### (1) 家庭汚水量原単位

本計画では、家庭汚水量原単位(生活系+営業系)について、過去10年の給水実績から予測すると、次の傾向となった。

- ・家庭汚水量の過去10年の実績は、227~231 L/人/日(平均229 L/人/日)で推移しており、ほぼ横ばい傾向である。
- ・将来予測値は現況値からほぼ横ばいの傾向を示す。また、上位計画である天竜川流総計画の設定値とほぼ同値である。

以上から本計画では下記のとおりとする。

家庭汚水量原単位=225 (L/人/日)

#### (2) 営業用水率・営業系汚水量原単位の設定

家庭汚水量に占める営業汚水の割合を営業用水率とすると、その平均は16%であることから、本計画では営業用水率16%を採用する。

営業汚水量原単位は、家庭汚水量に営業用水率を乗じて設定する。その結果は、天竜川流総計画と整合を図り、下記のとおりとする。

営業汚水量原単位=225 (L/人/日) × 16 (%) ≒ 40 (L/人/日)

※ただし、処理場流入水量を確認すると、営業系排水がほとんど発生しないと想定される地区(名子南)もあるため、該当地区は営業系汚水量原単位は計上しない。

#### (3) 時間変動比

##### 1) 日平均・日最大比

松川浄化センター流入実績や上水道の給水実績を参考として、「下水道施設計画・設計指針と解説、2019年版、(社)日本下水道協会」(以下「設計指針」という)の中間値を採用し、日平均:日最大の比を0.80:1.0とする。

日平均:日最大=0.8:1.0

##### 2) 日最大・時間最大比

松川浄化センター流入実績や上水道の給水実績を参考として、「小規模下水道計画・設計・維持管理指針と解説-2004年版-」の中間値である時間最大比2.0を採用する。

日最大:時間最大=1.00:2.00

#### (4) 地下水量原単位

埋設された下水道管きょよりも地下水位が高い場合、管きょの継ぎ手部などから地下水が浸入することがある。

流総計画では、地下水量については「設計指針」において一般的に用いられる値として示されている計画家庭汚水1人1日最大汚水量の10～20%とされている。

本町の下水道と農業集落排水の処理場流入実績では地下水流入は少ないため、設計指針で示される地下水率の下限である10%を採用し、これを5単位でまるめ、30(L/人/日)を採用する。

$$280 \text{ (L/人/日)} \times 0.10 = 28 \rightarrow 30 \text{ (L/人/日)}$$

なお、計画上、地下水については、経年変化や時間変動比を見込まないものとする。  
経年的な変化は計上しないものと考え、下水道接続対象とする各地区共通で適用する。

#### (5) 汚水量原単位

本計画で採用する汚水量原単位は次の通りとする。

経年的な変化は計上しないものと考え、また、各処理区ごとに適用する。

表3-4 汚水量原単位（標準）総括表

単位：l/人/日

時間変動	項目	天竜川流総計画	既計画	本計画			既計画との比較	備考
		令和17年 (目標)	令和12年	令和元年 (実績)	令和12年 (中間年)	令和17年 (目標年)		
日平均	家庭	225	240	225	225	225	-15	
	地下水	55	30	30	30	30	0	
	計	280	270	255	255	255	-15	
日最大	家庭	280	320	280	280	280	-40	
	地下水	55	30	30	30	30	0	地下水率10%
	計	335	350	310	310	310	-40	
時間最大	家庭	-	545	560	560	560	15	
	地下水	-	30	30	30	30	0	
	計	-	575	590	590	590	15	

表 3-5 汚水量原単位（営業系が少ない地区）総括表

単位：1/人/日

時間変動	項目	天竜川流総計画	既計画	本計画(営業系が少ない地区)			既計画との比較	備考
		令和17年(目標)	令和12年	令和元年(実績)	令和12年(中間年)	令和17年(目標年)		
日平均	家庭	225	240	185	185	185	-55	
	地下水	55	30	30	30	30	0	
	計	280	270	215	215	215	-55	
日最大	家庭	280	320	230	230	230	-90	
	地下水	55	30	30	30	30	0	地下水率10%
	計	335	350	260	260	260	-90	
時間最大	家庭	-	545	460	460	460	-85	
	地下水	-	30	30	30	30	0	
	計	-	575	490	490	490	-85	

※名子南地区に適用

### 3-5. 工場排水・その他排水検討方針

区域内の工場や大口水使用者については、既に下水道等に接続済みであることから、流入実績を用いて設定を行う。

#### (1) その他排水

その他排水としては、観光施設の排水として大島地区の清流苑の排水を計上する。

過去10年の実績から、清流苑の日平均汚水量は38m<sup>3</sup>/日である。また、時間変動比は家庭汚水量原単位と同等と考え、0.8:1.0:2.0を適用する。多少の変動もあるため、これを5m<sup>3</sup>/日単位で丸めて下記のとおり計画値を設定した。

また、年次による変化は考慮しないものとして、以下にその他汚水量を設定する。

表 3-6 その他汚水量（清流苑）

単位：m<sup>3</sup>/日

地区	時間変動	令和元年(現況)	令和12年(中間年)	令和17年(目標)	備考
大島	日平均	40	40	40	清流苑
	日最大	50	50	50	清流苑
	時間最大	100	100	100	清流苑

## (2) 工場排水

地区工場排水の将来値は、本町の工業出荷額の将来予測による増加率と工場排水量原単位の低減率(天竜川流総計画)をふまえ、次のように設定する。

表3-7 集合処理区域内の工場排水量

地区名	現況		中間年(令和12年度)		目標年(令和17年度)	
	日平均 ・日最大	時間最大	日平均 ・日最大	時間最大	日平均 ・日最大	時間最大
松川	254	507	259	518	265	530
大島	112	224	114	228	117	234
名子南	0	0	0	0	0	0
下水道計	365	731	373	746	382	764

### 3-6. 計画汚水量

家庭汚水量、地下水量、工場排水量をまとめた各地区の計画汚水量を示す。

現全体計画では名子南地区、大島地区は将来的に下水道接続するものとしているため、松川処理区と合計した水量も算出する。

表 3-8 各地区計画汚水量（令和元年度 現況）

地区名	計画面積 (ha)	計画人口 (人)	日 平 均			日 最 大			時 間 最 大						
			家庭	工 場	その他	家庭	工 場	その他	家庭	工 場	その他				
			地下水	工 場	その他	地下水	工 場	その他	地下水	工 場	その他				
汚水量原単位			185-225	30		230-280	30		415-505	30					
松川	203	5,466	1,230	164	254	1,648	1,530	164	254	1,948	3,061	164	507		3,732
大島	79	1,715	386	51	112	40	480	51	112	693	960	51	224	100	1,335
名子南	24	951	176	29	0	205	219	29	0	248	437	29	0		466
下水道計	306	8,132	1,792	244	365	40	2,229	244	365	50	4,458	244	731	100	5,533

表 3-9 各地区計画汚水量（令和12年度 中間年）

地区名	計画面積 (ha)	計画人口 (人)	日 平 均			日 最 大			時 間 最 大						
			家庭	工 場	その他	家庭	工 場	その他	家庭	工 場	その他				
			地下水	工 場	その他	地下水	工 場	その他	地下水	工 場	その他				
汚水量原単位			185-225	30		230-280	30		415-505	30					
松川	203	4,982	1,121	149	259	1,529	1,395	149	259	1,803	2,790	149	518		3,457
大島	79	1,571	353	47	114	40	440	47	114	651	880	47	228	100	1,255
名子南	24	843	156	25	0	181	194	25	0	219	388	25	0		413
下水道計	306	7,396	1,630	221	373	40	2,264	221	373	50	4,058	221	746	100	5,125

表 3-10 各地区計画汚水量（令和17年度 目標年）

地区名	計画面積 (ha)	計画人口 (人)	日 平 均			日 最 大			時 間 最 大						
			家庭	工 場	その他	家庭	工 場	その他	家庭	工 場	その他				
			地下水	工 場	その他	地下水	工 場	その他	地下水	工 場	その他				
汚水量原単位			185-225	30		230-280	30		415-505	30					
松川	203	4,754	1,070	143	265	1,478	1,331	143	265	1,739	2,662	143	530		3,335
大島	79	1,500	338	45	117	40	420	45	117	632	840	45	234	100	1,219
名子南	24	804	149	24	0	173	185	24	0	209	370	24	0		394
下水道計	306	7,058	1,557	212	382	40	2,191	212	382	50	3,872	212	764	100	4,948

#### 4. 管きよ計画

污水管きよは、次の事項に留意して決定する。ただし、公共下水道・農業集落排水とも污水管きよはほぼ整備済みであり、今後整備する施設は農業集落排水事業を下水道へ接続する管きよとなる。

- ①地表面勾配に沿った自然な形で処理場に導けるルートを検討する。原則として幹線ルートは処理区内地盤の最も低い地点を通過するようにする。
- ②地形条件を考慮して管きよの埋設深さを小さくする。
- ③管きよは、原則として道路（公道）の下に埋設されるので、十分な掘削幅が得られる道路を選定する。
- ④交通量の多い国道、県道への埋設はできる限り避ける。
- ⑤河川横断、鉄道横断はできる限り避ける。

污水幹線の概要を示す。

表 4-1 污水幹線ルート概要

名称	管径又は幅員	延長	備考
松川污水 1号幹線	200mm～ 500mm	約 4,770m	名子地区、大島地区等の用途地域の大部分を流集し処理場へ流入する。
松川污水 2号幹線	250mm～ 300mm	約 650m	宗源原地区を集め、1号幹線に接続する。
松川污水 3号幹線	200mm～ 250mm	約 2,100m	名子南部、中部を集め、1号幹線に接続する。
松川污水 4号幹線	150mm～ 500mm	約 950m	松川、馬坂、宮本地区を集め、1号幹線に接続する。
松川污水 5号幹線	75mm～ 200mm	約 1,360m	名子南地区の污水を集め、3号幹線に接続する。

## 5. 終末処理場計画

松川浄化センターは、本計画区域から効率良く汚水を集水することかできる天竜川沿いの低地に位置している。

松川浄化センターの処理方式は「オキシデーションディッチ法」であり、平成10年度より供用開始しており、現在は2池が稼働している。

本浄化センターの概要は次表の通りである。

表5-1 松川浄化センター計画概要

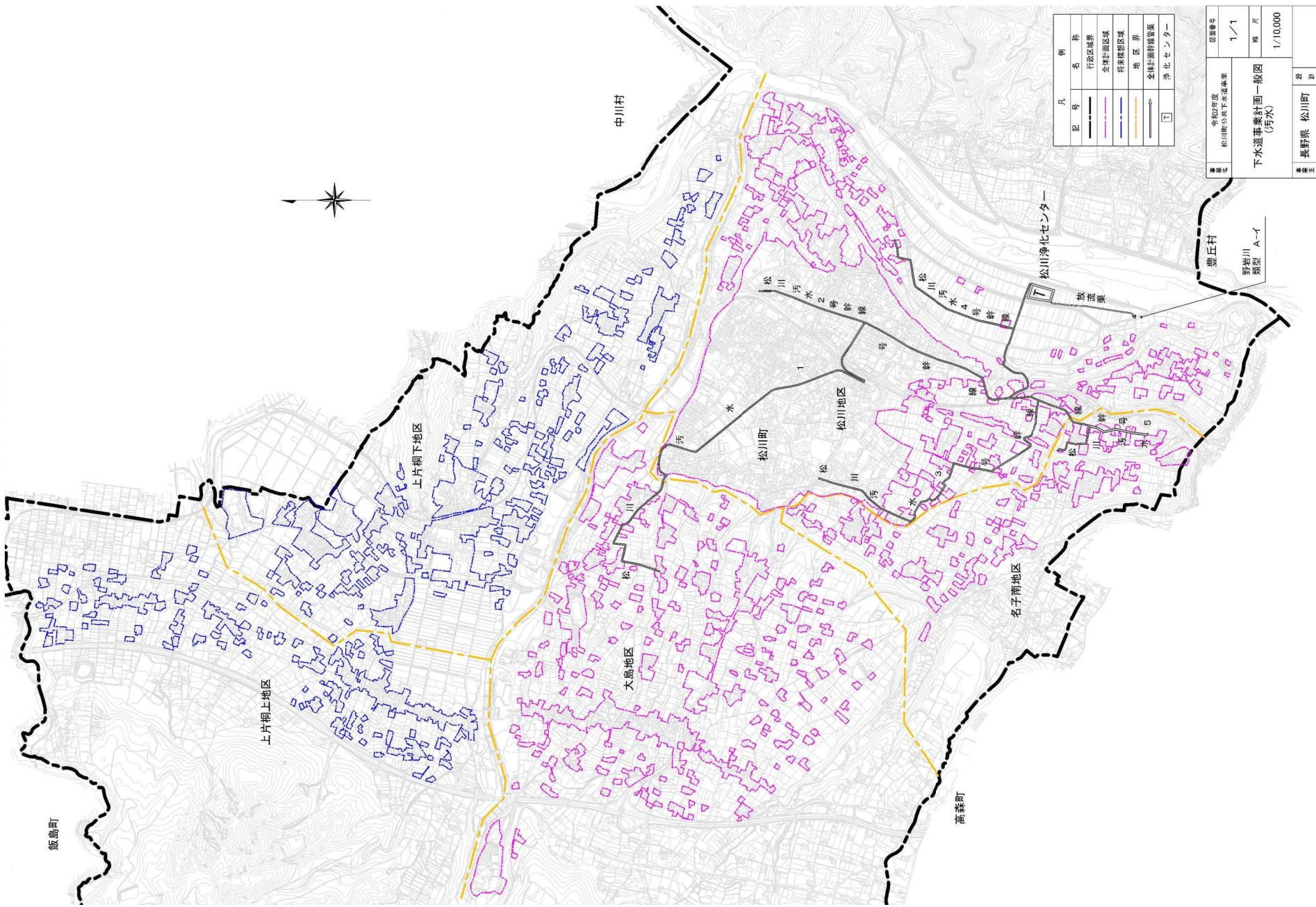
項目		既設	今回全体計画	
日最大汚水量		R1実績 1,630m <sup>3</sup> /日 (晴天日)	2,580 m <sup>3</sup> /日	
水処理能力		2,700m <sup>3</sup> /日	2,700 m <sup>3</sup> /日	
流入水質 設計水質	BOD	H22実績 210mg/l	230 mg/l	
	SS	H22実績 200mg/l	200 mg/l	
放流水質	BOD	H22実績 2mg/l	15 mg/l	
	SS※	H22実績 3mg/l	30 mg/l(10mg/l)	
主要な 処理施設	水処理 施設	主ポンプ	φ100 1.2m <sup>3</sup> /min×2台、φ150 2.4m <sup>3</sup> /min×2(1)台	φ100 1.2m <sup>3</sup> /min×2台、φ150 2.4m <sup>3</sup> /min×2(1)台
		オキシデーショ ンディッチ	幅4.5m×周長100.0m×水深3.0m×2池	幅4.5m×周長100.0m×水深3.0m×2池
		最終沈殿池	φ14.7×深3.5m×2池	φ14.7×深3.5m×2池
		塩素混和池	幅1.0m×長6.0m×深1.5m×1水路	幅1.0m×長6.0m×深1.5m×1水路
	汚泥 処理 施設	汚泥濃縮設備	—	φ2.9×深3.0m×2槽
		汚泥脱水機	圧入式スクリーンレス脱水機(Ⅲ型) φ400×1台	圧入式スクリーンレス脱水機(Ⅲ型) φ500×1台

※設計計算上10mg/Lで発生汚泥量を計算する。

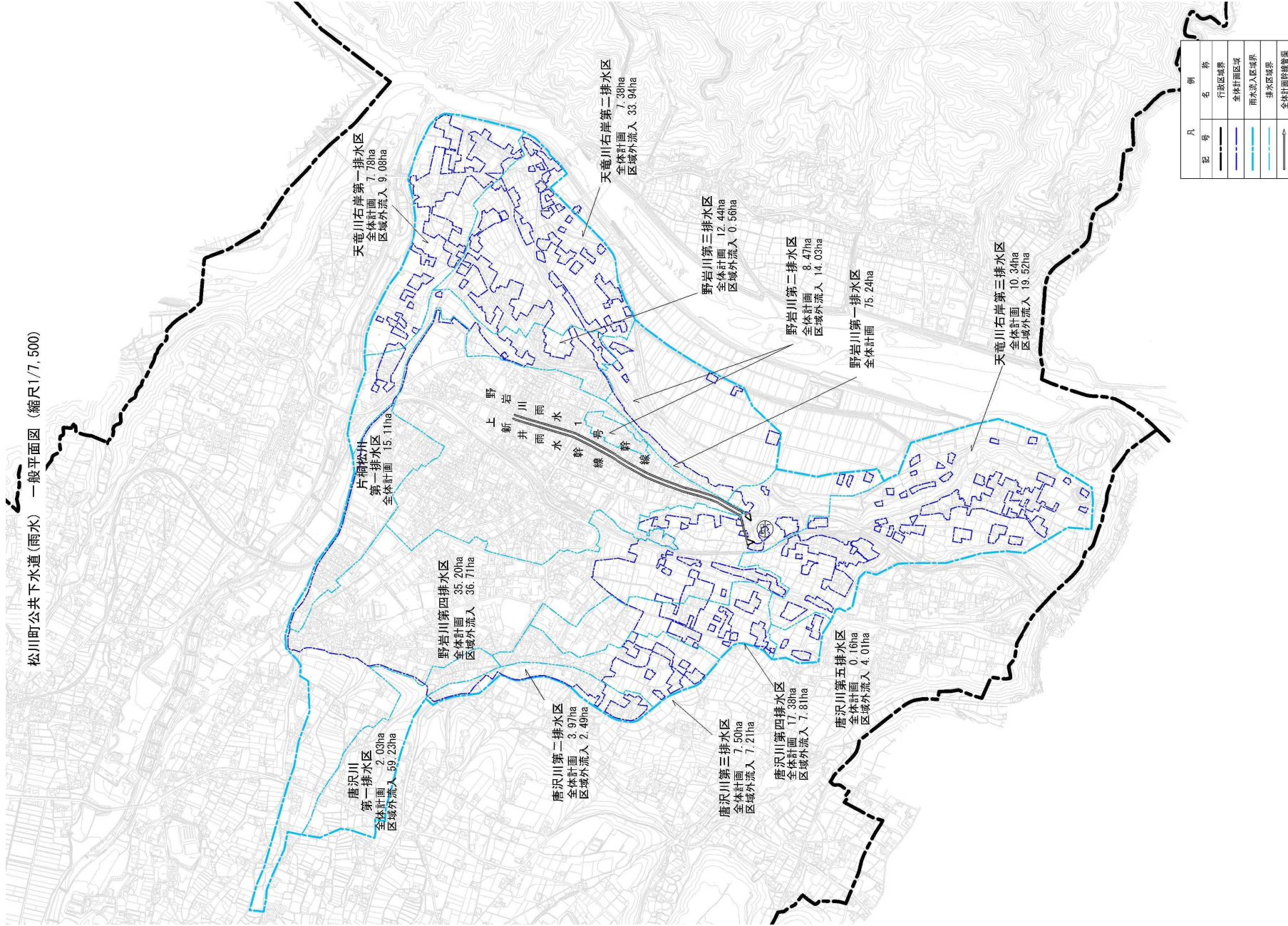


6. 計画図

松川町公共下水道(汚水)一般平面図(縮尺1/10,000)



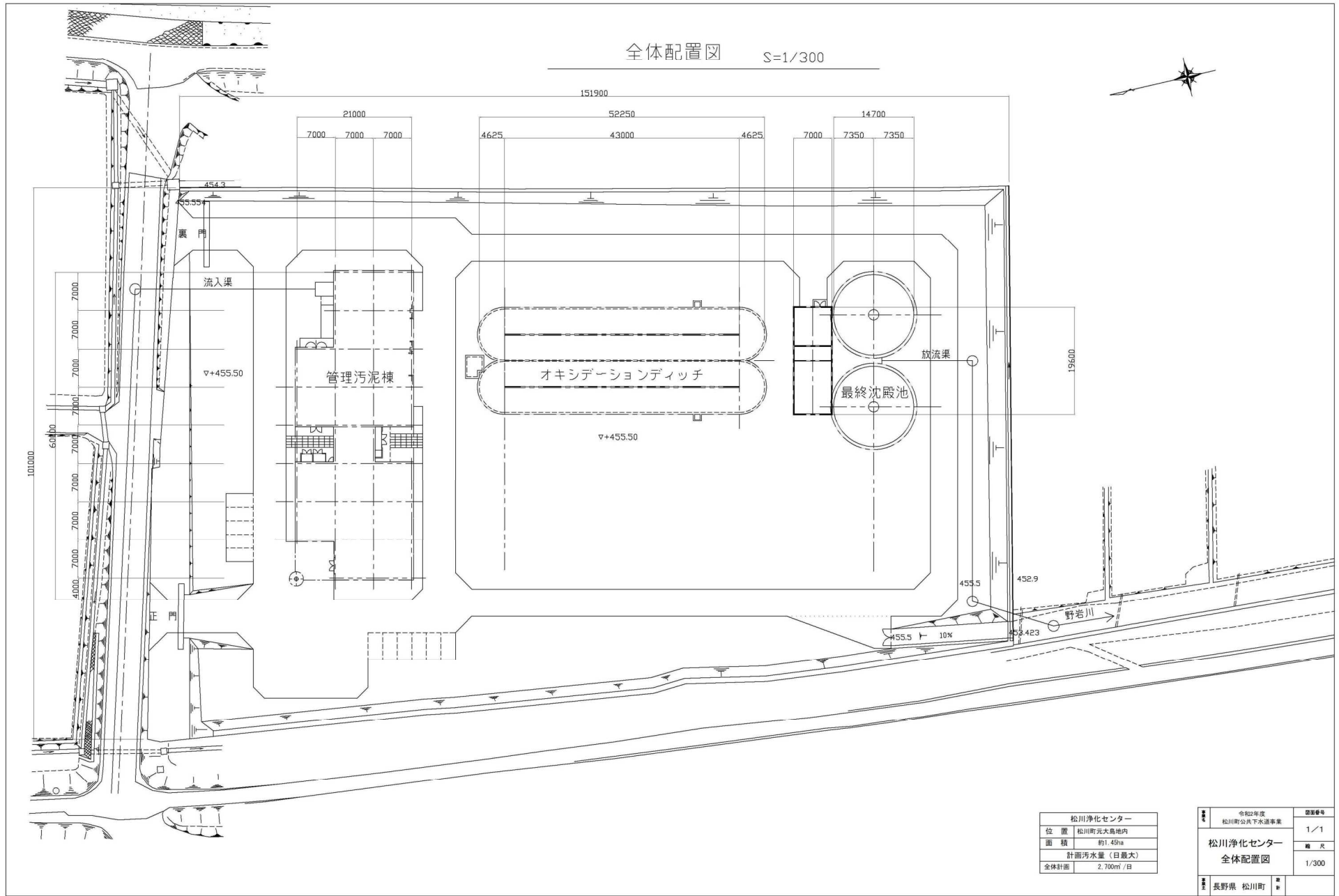
松川町公共下水道(雨水) 一般平面図 (縮尺1/7,500)



凡例	
記号	名称
——	行政区境界
——	全排水区域
——	雨水流入区域
——	排水区域境界
→	全体計画排水管渠

図面番号	1/1
年度	令和2年度
事業名	松川町公共下水道事業
縮尺	1/7,500
図名	下水道事業計画一般図(雨水)
製図	長野県 松川町
検査	

全体配置図 S=1/300



松川浄化センター	
位置	松川町元大島地内
面積	約1.45ha
計画汚水量(日最大)	
全体計画	2,700m <sup>3</sup> /日

年度	令和2年度	図面番号	
事業	松川町公共下水道事業	縮尺	1/1
松川浄化センター		縮尺	
全体配置図		縮尺	1/300
所在地	長野県 松川町	図数	